

氏名(本籍)	坂口 慶治 (大阪府)
学位の種類	理学博士
学位記番号	博乙第401号
学位授与年月日	昭和62年7月31日
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当
審査研究科	地球科学研究科
学位論文題目	近畿内帯山地における廃村現象の地理学的研究
主査	筑波大学教授 理学博士 山本正三
副査	筑波大学教授 理学博士 奥野隆史
副査	筑波大学教授 理学博士 佐々木博
副査	筑波大学助教授 理学博士 石井英也

論文の要旨

本研究の目的は、近畿内帯山地における廃村現象の発生機構とその要因を地理学的に解明し、それによって近畿内帯山地の地域的特性を明らかにすることにある。本研究では、廃村現象とは集落の消滅過程をさしてあり、廃村化の過程と、集落の自然的立地要因、その生産活動、社会構造、および集落の近接する集落や都市との相対的位置関係にもとづく経済的・社会的・行政的結合関係などの集落的・地域的諸特性との関係を明らかにすることを課題としている。この課題へアプローチするため、詳細な事例調査を比較分析し、一般的傾向をとり出すという方法が用いられている。調査事例地域には、近畿内帯山地において特に廃村発生率の高い北部山地から、地域的特性を考慮して、農村家内工業地域、大都市地域、地方都市地域、通勤兼業農業地域に近接する廃村の集中的発生地域を取り上げ、各地域から互に隣接する廃村を数集落づつ選び、それらについて、その廃村化過程が綿密に比較分析された。その結果、次の傾向が明らかになった。

(1) 廃村化過程と集落的・地域的特性との関係

集落の戸数欠落過程は、下層先行型離村から上層先行型離村への転換点を境にして、単なる戸数規模の縮小化段階から、全戸離村にまで結びつく廃村化段階に移行する。そして、その縮小化段階においても、戸数減少が著しい縮小型と、あまり変化のない固定型、および擬似的固定型・中間型・混合型などのタイプがあり、それらの形態がその後の廃村化段階の形態に密接な関係をもっている。すなわち、縮小型は固定型よりも早く廃村化段階に入るが、廃村化段階ではやや緩慢な離村過程をたどり、最終的には集団離村や集団就職型離村の形態をとりやすい。一方、固定型は縮小型

よりも廃村化段階には遅れて入るが、その後は急激な分散型離村の形態をとり、短期間で全面廃村化する。

このような縮小化および廃村化の段階の諸形態は集落の諸特性と密接に対応している。すなわち、縮小型→緩慢型は低位集落、中心地的集落、大集落、疎状型集落、段層分化の少ない開放的な社会構造をもつ集落、複合経済型集落などに現われ、固定型→急激型はそれらとは対照的な集落に、また、中間型や混合型などはそのような集落的諸特性が交錯ないしは変化している集落に現われることがわかった。

さらに、地域的特性との関係では、近接地域が農村家内工業地域、大都市地域、地方都市地域、通勤兼業農業地域の順に、廃村現象が現われる傾向が認められた。

(2) 廃村化を惹起した集落的要因

人口過密と階層分化を背景とする小規模な複合的経済活動が、近年になって急激に衰滅したことが、近畿内帯山地の廃村化の主要な要因となっている。その中でも影響の大きかった製炭業の衰滅も、その買山依存度の高い脆弱な産業構造によるところが大きく、また、山林地主による性急な育成林業への転換によっている場台が多かった。

(3) 廃村化を惹起した地域的要因

廃村化は、近接平地における産業、都市化の発展によって、最上層が土地資産を管理・兼営しうる中・近距離域へ転居することが可能となって進行した。また、上層部からの離村は、高校の進学・通学障害の問題が直接的な契機となっており、廃村化が高度経済成長期以降の急激な高学歴社会化の進展と、密接に関係していることがわかった。

結局、近畿内帯山地では、集落位置の絶対的高度は低くとも、平地からの比高の大きな急崖によって隔絶された集落が多いうえに、近接平地の急速な産業発達によって、廃村化が誘発されたものとみなすことができた。それによって、近畿内帯山地は、日本全体の中では平地・都市近接地型の、先発的な廃村発生地域として位置づけられた。

審 査 の 要 旨

いわゆる経済の高度成長期には、人口の都市集中の対極として過疎地域の形成が注目すべき地理的現象となって現われた。とりわけ山村地域では、集落の荒廃、無人化、廃村化が顕著であった。山村における人口減少、集落の荒廃は明治中期以後、近代産業と都市の発展に伴って進行した長い歴史のある現象であるが、高度成長期に目立って進展したことで多くの研究者の関心を集めた。廃村化現象は、また、地域的集中性の顕著な現象で、近畿内帯山地はその主要な集中地域であった。坂口氏は集落の廃村化現象に着目し、その形成過程と要因を分析することによって近畿内帯山地の地域的特性をとらえようとした。この研究はすでに住民が流出してしまったものを含む20数集落について、廃村化の過程を長期的に復原するという非常に困難な作業を基礎にしており、山村集落の

人口減少過程の研究に対して、貴重な資料を提供しているばかりか、それにもとづいての廃村化過程の場所的・地域的条件との関連の分析によって、地壘山地としての近畿内帯山地の自然的特質が、この過程にいかん反映しているかを克明に解析した点は、地域の地理学的研究の領域にとって大きな意義がある。本論文には高い評価を与えてよいと思われる。

よって、著者は理学博士の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。